

令和7年度入学試験問題（後期日程）

小論文

初等教育教員養成課程 人文・社会教育プログラム

解答例

小学生に本を読ませる指導については、次のように考えます。最近の子どもたちは、結末を楽しみに、じっくり本を読み進めるというより、スマホやパソコンを使い、間を飛ばして一気に先を読めてしまうことに慣れてしています。結末を先に知ること、本を読み通した気分になっているようです。私自身、かつてはそのような読み方をしていました。しかし、ある時、本を読む途中のプロセスにこそより意味があることに気付いたのです。森鷗外の『舞姫』は、若い主人公が恋人をドイツに残したまま、自分一人だけが日本に帰国する話です。帰国途中の船上の場面から物語が始まるため、結末は最初にわかります。主人公はなぜ妊娠した恋人をドイツに残して帰る決断をしたのでしょうか。彼は留学によって立身出世が約束されていましたが、恋人との暮らしを優先したため、一旦は出世の夢が潰えました。しかし、最後に彼はドイツを訪問した大臣について帰国する道を選んだのです。恋人を置き去りにした行為は決して許されるものではないと私は考えますが、その決断に至った主人公の葛藤を共有しながら読み解くことは、何物にも代えがたい経験でした。悩みと決断のプロセスを、模擬体験したのです。

本を読む時に、大江の言うように、集中できない場合もあります。幼少期に木の上で本を読む体験をした彼は、大人になって電車やバスの中も、木の上と同じように読書に没頭できる場であることに気付きました。私は子どもたちに読書指導をする際に、グラウンド、学校の裏山など、彼らの想像力をより掻き立てて、子どもたちがワクワクしながら読書に没頭できる場を創出したいと考えます。そのような体験をした子どもは、その後、本の世界に集中できる場を自ら探しだせるはずです。

途中の物語に意味があることを知り、想像力を駆使してワクワクしながら本を読むこと、それらを子どもたちに体験させる読書指導に重点を置きたいと考えます。

(794字)